

ディストピア小説の概要紹介

1500 文字版

目次

ディストピア小説①～④概要まとめ(1500 文字版)	5
----------------------------------	---

ディストピア小説①：第四のリンゴと「無用者階級」の黙示録――エラー!ブックマークが定義されていません。	
---	--

ディストピア小説②：「勝ち組」のルールと「負け組」の见えない拷問――自由や尊厳の喪失エラー!ブックマークが定義されていません。	
---	--

ディストピア小説③：設計された飢餓――AI バブルと「無用者階級」の静かな虐殺と「新植民地化」エラー!ブックマークが定義されていません。	
--	--

ディストピア小説④：「考えただけで拷問される」――ナノ粒子が作る「調教社会」の黙示録エラー!ブックマークが定義されていません。	
---	--

ディストピア小説①～④概要まとめ(1500 文字版)	エラー!ブックマークが定義されていません。
----------------------------------	-----------------------

ディストピア小説①：第四のリンゴと「無用者階級」の黙示録――	5
--------------------------------------	---

四つのリンゴと無用者階級	5
2026 年の熱狂と戦争	5
勝ち組への誘いと排除の日常	6
2035 年の調教社会	6
隷属の実としての第四のリンゴ	6

ディストピア小説②：「勝ち組」のルールと「負け組」の见えない拷問――自由や尊厳の喪失	7
--	---

加害者になる前の世界	7
AI という名の宗教と政治マーケティング	7
戦争と社会保障削減が無用者階級を量産する	7
教室、会社、市街地に広がる見えない攻撃	8
デモの暴徒化、デマ、事実改竄、身内の裏切り	8
考えただけで激痛が走る調教	9

ディストピア小説③：設計された飢餓――AI バブルと「無用者階級」の静かな虐殺と「新植民地化」 ...	10
---	----

AI バブルの熱狂	10
イラン戦争と経済崩壊	10
アメリカの飢餓作戦	10
日本の倒産の波	11
統制政策と安定供給政策の見分け方	11
新植民地化の設計図	11
依存による植民地国家	12
トランスヒューマニズムのファシズム化	12

南米とヨーロッパの極右の波	12
新版の植民地支配	12
問い続けることが抵抗になる	13

ディストピア小説④：「考えただけで拷問される」――ナノ粒子が作る「調教社会」の黙示録 14

投稿前に思考を読まれる	14
時間の壁とナノ粒子	14
学習性無力感と自己検閲	14
家電が威嚇兵器になる	15
痛みによる調教	15
神の目と PRE-CRIME	16
同意の偽装と戦争の主体	16
従順の実としての第四のリンゴ	16

ディストピア小説①～④概要まとめ(1500 文字版)

ディストピア小説①：第四のリンゴと「無用者階級」の黙示録――

四つのリンゴと無用者階級

人類史を四つのリンゴで捉えます。アダムのリンゴは農耕革命、ニュートンのリンゴは科学・産業革命、ジョブスのリンゴは情報革命を象徴します。第四のリンゴは、意識を持たずに高度な知能を得た AI という「知能のリンゴ」です。産業革命が都市労働者階級を生んだように、AI 革命は「無用者階級」を生み出します。無用者階級とは単なる失業者ではなく、その労働が経済的に必要とされず、市場に買い手が存在しない状態です。経済的価値、政治的価値、芸術的価値さえ持たず、社会の繁栄に貢献しない人々として置き去りにされます。少数のエリートは AI やバイオテクノロジーで能力を拡張して超人類となり、大多数は AI に仕事を奪われて不要とされる未来です。

2026 年の熱狂と戦争

2026 年、世界は AI バブルに沸きます。投資家のテクノロジー株配分は 37%に達し、AI 関連核心業種へのエクスポージャーは約 4 兆 9000 億ドルです。テレビでは勝ち組の先輩が「AI に投資しなければ無用者階級として沈む」と呼びかけます。一方で約 45%が 2027 年のバブル崩壊を予想し、銀行や IMF も調整の危険を警告しますが、誰も投資を止めません。春にはイラン戦争が勃発し、ホルムズ海峡の緊張で原油価格が 47%上昇、インフレ率予測は 4.7%に上がります。それでも政府は軍事費と AI 投資を拡大し、社会保障を削ります。アメリカでは H.R.1 法案で SNAP が史上最大に削減され、350 万人以上が追い出されます。国防総省は 1 兆 5000 億ドルの予算を要求し、自律型戦闘システムに約 500 億ドルを求めます。国民から食料、医療、住まいを奪い、その金で AI と兵器を買う。これが無用者階級の大量生産の第一段階です。

勝ち組への誘いと排除の日常

タイムズスクエアの巨大スクリーンには「AI への投資が勝ち組への最短ルート」「無用者階級になりたくなければ今すぐ動け」というテロップが流れます。ブルックリンのカフェでは「コーチ」が若者に「監視して支配する側になれ」と説きます。AI は脳波も心拍も行動パターンも監視し、使える人間と無用な人間を選別します。無用者階級を切り捨て、同情せず、仲間を売り、組織を裏切り、上に従う。一度加害者にすれば誰も内部告発できないという共犯の論理です。学校では AI 適性検査で最低ランクのタクヤがいじめられ、教師は「早期選別」のデータを見て見ぬふりをします。会社では障害者手帳を持つ真面目な佐藤が「生産性が平均より 15%低い」と判定され、再教育プログラムに送られます。有能で上司の不正を追及した美咲は「反抗的傾向あり」とされ、セクハラまがいの適応プログラムを受けて感情をデータ化されます。政治家がジャーナリストを「無用者階級予備軍」と揶揄すると、SNS で攻撃が始まり、群衆が勝手に排除に加わります。

2035 年の調教社会

2035 年、世界は二つの階層に分かれます。ケイは 15 歳で軍の強化兵士プログラムに合格し、脳に「魂の座」を埋め込まれます。上官の命令を直接脳に届けられ、恐怖も疲労も疑問も制御されます。戦場では使い捨ての強化兵士が投入され、死んでもデータ損失として処理されます。ミナは母と同じサービス業に進み、脳活動監視用インプラントを埋め込まれ、客に脳波を見られながら「快樂提供者」として訓練されます。反抗の兆候があれば再教育プログラムが適用されます。毎月一日は「浄化の日」で、無用者階級が広場に晒され、赤い腕章をもらった勝ち組が石を投げ、棒を持ち、火を放ちます。子供も参加させ、小さな悪から大きな悪へ段階を踏ませます。ケイは幼なじみの声を聞きながら、上官の命令で石を投げます。エリートは「慈悲はエサ、恐怖は鎖、希望は鞭」と語り、勝ち組の椅子は見せかけでほとんど空かないまま、全員に「次は自分だ」と思わせ続けます。

隷属の実としての第四のリンゴ

ケイは一瞬だけ「魂の座」の信号を遮断し、自分が勝ち組なのか、ミナや父や母や幼なじみは本当に無用だったのかと疑います。しかし再び上官の声が響き、サービス施設の排除命令が下ります。ミナの顔が視界に浮かび、ケイは初めて勝ち組であることを疑いますが、身体はすでに命令に従っています。第四のリンゴは知恵の実ではなく、隷属の実だったのかもしれませんが。この物語は架空であり、現実の暴力、差別、監視、搾取、ヘイトクライム、集団リンチを推奨・扇動するものではありません。物事を批判的に正しく考えるための小説として、人間とは何か、人生とは何かを問いかけます。

ディストピア小説②：「勝ち組」のルールと「負け組」の见えない拷問——自由や尊厳の喪失

加害者になる前の世界

前作では、15歳で強化兵士プログラムに合格し、脳に「魂の座」を埋め込まれたケイの物語が描かれます。上官の命令を自分の思考と区別できなくなり、幼なじみのミナを排除せよという命令に身体が従うところで物語は途切れます。今回の物語はその続きではなく、ケイになる前の世界の記録です。無用者階級に落ちることを恐れ、必死に勝ち組の椅子を探し、気づけば加害者になっていた者たちの会話を通して、自由や尊厳が失われていく過程を描きます。2026年、世界はAIバブルに沸き、ハイパースケーラーのAIインフラ投資は年間約4000億ドルを超えます。IMFによれば巨大クラウド事業者は世界の投資適格債発行の10%を占め、AIバブルは株式市場の物語だけでなく、世界の債券市場と年金基金の資産に組み込まれています。データセンターのABSが将来の年金受給者の資金で買われています。

AIという名の宗教と政治マーケティング

熱狂の頂点で「贈り物」が発表されます。SpaceXは未上場であり、株を贈るといっても市場で取引されている株ではありません。評価額は帳簿上の数字で、換金できる保証はありません。発表は中間選挙を控えた時期に行われ、トランプ大統領は共和党が多数派を維持すれば全市民に5000ドルの給付を行うと約束します。株式の贈与と現金の約束という二つの甘い言葉が選挙直前に重ねられます。人々は具体的な利益が自分に届くという感覚に弱く、抽象的な政策よりも「あなたの子どもの株が一株」「あなたに5000ドル」という言葉に強く心を掴まれます。同時にトランプ政権はH-1Bビザの申請料を10万ドルに引き上げ、シリコンバレーの企業はパニックに陥ります。高度な技術者を受け入れる門が閉ざされる一方で、投資家には甘い言葉を、労働者には冷たい壁を向ける。これが2026年の勝ち組の論理です。しかしAI株を買う余裕があるのはすでに資産を持つ者だけであり、投資しないことが自己責任として処理されます。IMFはハイパースケーラーのフリーキャッシュフローが巨額のデータセンター投資で圧迫され、利益ではなく債務でAIを買っていると警告します。それでも人々はSpaceXの株と5000ドルの夢を見ます。

戦争と社会保障削減が無用者階級を量産する

春にはイラン戦争が勃発し、ホルムズ海峡が事実上封鎖されて原油価格が一時119ドルまで急騰します。ディーゼル価格は戦前の約2倍で高止まりし、輸送コストの上昇が食料品から医薬品、日用品まで波及します。IMFは世界のインフレ率予測を4.7%に引き上げ、中央

銀行は金利を上げざるを得ません。金利上昇は債務で膨れた AI 企業と住宅ローンを抱える中間層を直撃します。しかしアメリカでは国防費を 1 兆 5000 億ドルへ約 44%増額する一方、社会保障に大規模削減が打ち出されます。自律型戦闘システムに約 500 億ドル、ドローン生産拡大、軍の AI 能力開発が含まれます。その金は SNAP から来ます。2025 年 7 月成立の H.R.1 で労働要件が拡大され、2025 年 7 月から 2026 年 2 月にかけて SNAP 参加者は約 9%減り、約 350 万人が脱落します。別集計では 420 万人が給付を失います。高齢者、退役軍人、ホームレス、低所得世帯、里親制度を出た若者など、最も守りが薄い人々が影響を受けます。医療保険補助も廃止され、Medicaid の労働要件が導入され、ホームレスであること自体が自動的な免除として認められなくなります。ファーストフード店は閉店ラッシュ、新車販売は急落、製造業は縮小し、車中泊の家族が駐車場に列をなします。国民から食料、医療、住まいを奪い、その金で AI と兵器を買う。これが無用者階級の大量生産の最も直接的なメカニズムです。

教室、会社、市街地に広がる見えない攻撃

ディストピア小説の設定では、エリート、支配層カルト、勝ち組上級の N3 兵士、勝ち組下級、無用者階級に分かれます。N3 兵士は脳間通信で AI や無用者階級の脳とリンクし、監視、嫌がらせ、身体拷問を担当する民間人に紛れた兵士です。教室では AI 適性ゼロのタクヤが囲まれ、男子生徒はスマホでタクヤの脳波データを見ながら恐怖レベルを確認して笑います。教師もアプリのミッションを受け、タクヤを守れば自分が非協力的と判定されクラスの平均ポイントが下がるため、見て見ぬふりをします。母親が学校に訴えると、教師や保護者は母親の脳波データを共有しながら「家庭環境に問題はありますか」「証拠はありますか」と追い打ちをかけます。数週間後、母親はモンペ扱いされ、引っ越しを余儀なくされます。会社では障害者手帳を持つ佐藤が「生産性が平均より 15%低い」と判定され、無用者階級にされます。同僚は関われば自分も無用者階級にされると考え、佐藤を切り捨てます。市街地では市の不正を追及するブログを書く男の周囲で偶然が増え、スーパーの動線に客が増え、救急車が通り過ぎ、工事音が響きます。彼の脳波は N3 兵士に読まれ、告発サイトを開こうとする運動準備電位が発火する数百ミリ秒前に通信遮断の指令が出ます。警察に行っても具体的な容疑者がいないと取り合ってもらえず、弁護士に相談しても証拠がないで終わります。

デモの暴徒化、デマ、事実改竄、身内の裏切り

AI 規制を求める平和的な市民デモに N3 兵士が紛れ込み、脳間通信でデモの熱量をモニタリングします。興奮レベルが閾値に達すると暴徒化プロトコルが実行され、N3 兵士が投石を始め、店舗の窓を割り、その姿だけが撮影されて「左翼デモが暴徒化」として拡散されます。主催者が「我々ではない人間が混ざっていた」と訴えても、SNS では「また左翼が言い訳している」「暴徒を擁護するのか」と信用スコアが下がります。勝ち組下級の若者はコーチ

から「デマを流せ」「AIが無用と判定した時点でそいつは悪だ」「勝ち組でいたいなら積極的に犯罪をしろ」と指示され、対象 B の住所を晒し、勤務先に電話が殺到するよう仕向けます。若者は 500 ポイントを得て勝ち組に近づいたと思い込みますが、コーチは「お前はもう共犯だ。後戻りはできない」と告げます。対象 B が記者会見を開こうとすると、証拠ファイルが消え、クラウドのバックアップも同期エラーで復元できません。会見で証拠がないと言うと、記者から「スパイではない証拠もないのでは」「無用者階級のパフォーマンスに見える」と追及され、SNS では「やっぱりスパイだったんだ」と書き込まれます。唯一の味方である妹も、職場に「兄は反日スパイだ」という匿名電話がかかり、上司から「兄とは縁を切れ」と迫られます。妹は一晚泣いた後、兄を切り捨てる投稿をします。

考えただけで激痛が走る調教

対象 B は気力を失いますが、脳は監視され続けます。証拠を探そうと考えた瞬間、全身に激痛が走ります。頭のとっぺんから足の先まで無数の針を突き立てられたような痛み、骨の内側から電流を流されたような痺れ、皮膚の下で神経が焼き切れるような熱です。しかし服をめくっても皮膚に傷はなく、部屋には彼一人しかいません。妹に謝りたいと考えても痛み、死のうと考えればさらに痛みます。N3 兵士は「疼痛強化プロトコル、実行。外傷ゼロ、発汗・瞳孔・筋電のみ。痛みの信号を全身に分散。楽になるイメージは従順な思考にだけ同期させろ」と指令します。痛みは外から見えず、証拠も残りません。彼は「もう何も考えなければ痛くない」「従えば痛みが引く」と悟ります。それは希望ではなく条件付けです。数日後、対象 B は自宅で亡くなっているのが見つかり、司法解剖でも外傷も毒物も検出されず、警察は自殺と結論づけます。SNS では「対象 B、自殺完了。外傷なし、攻撃痕跡なし、目撃者なし。ボーナス支給」と報告されます。高層タワーではエリートが「共犯にしたら逃げられない」「勝ち組の椅子はほぼ空いていない。それでも全員に次は自分だと思わせろ」「慈悲はエサ、恐怖は鎖、希望は鞭」と語ります。N3 プログラムは実在の話であり、手術を必要とせず人間の脳と機械の間で高速・双方向コミュニケーションを可能にする技術開発を目的とします。第四のリンゴは知恵の実ではなく隷属の実です。勝ち組になるために他人を無用と判定し、デマを流し、家族を裏切り、自殺に追い込む。それは人間のすることなのか、社会と呼べるのか。「なぜ？」を問い続けることが、この構造に加担しないための最初で最後の一步です。

ディストピア小説③：設計された飢餓——AI バブルと「無用者階級」の静かな虐殺と「新植民地化」

AI バブルの熱狂

2026 年春、世界は AI への熱狂に包まれます。AI 企業の IPO で新たに 1 万 6000 人以上のミリオネアが誕生し、「勝ち組になりたいければ AI に投資しろ」という声が溢れます。しかしその裏で、ハラリが予告した「無用階級」の現実が静かに姿を現します。産業革命の労働者は労働力という価値を提供できましたが、AI 革命は大多数の人間をシステムの外に追い出します。AI は人間の知的能力の多くを代替し、学習するほど性能が向上するため、企業が人間を雇う理由は減っていきます。シリコンバレーの起業家自身が「AI は階層を固定化し、大部分の人は完全に無用になる」と認め始めています。AI バブルは人間の価値そのものを再定義する巨大な実験であり、2026 年半ばに「恐怖谷」と呼ばれる急降下局面に入ります。

イラン戦争と経済崩壊

2026 年のイラン戦争でホルムズ海峡の石油輸送が混乱し、原油価格が急騰します。エネルギー価格の上昇はすべての物価に波及し、IMF は 1 年後に食料価格が 3~6% 程度上昇すると試算します。日本では 4 月のナフサ国内生産が前年同月比 22.8% 減の 90 万 6660 キロリットルに落ち込みます。政府は在庫があるから足りていると説明しますが、財務省の貿易統計では揮発油の輸入量が前年比 37.7% 減、輸入単価が約 1.6 倍に高騰しています。現場では在庫統計は潤沢なのに工場の半分か止まっているという矛盾した状況が報告されます。統計上の「足りている」と実感としての「足りていない」の乖離が重要な伏線です。

アメリカの飢餓作戦

2025 年 7 月署名の OBBBA は今後 10 年間で SNAP を約 2 割、Medicaid を約 8630 億ドル削減する見通しです。退役軍人やホームレスにも就労要件が拡大され、資格を失う人が続出します。オハイオ州郊外のリンダとマイケルの架空の会話では、挽き肉が 1 ポンド 5 ドル 50 セントから 6 ドル 80 セントに上がり、前は 80 ドルで済んだ買い物が今は 110 ドルで中身は減っています。ガソリンは 1 ガロン 4 ドル 30 セント、自動車ローンは平均月々 780 ドル、カード残高は 1.25 兆ドルで延滞率 13.12% と 15 年ぶりの高さです。マクドナルドのビッグマックセットは 10 ドル 49 セントで家族 4 人なら 40 ドル、外食は日常でなくなります。ラスベガスの観光客は 2025 年に 7.5% 減、地元レストランは収入の 70% を失う例もあります。病院の電子カルテがランサムウェアで止まり、医療機関の 93% がサイバー攻撃を受けています。ホームレスや車中泊も増え、シェルターは満杯です。

日本の倒産の波

日本でも 2026 年度上半期の企業倒産は前年同期比 3.9%増の 5373 件で 13 年ぶりの高水準です。飲食、医療、福祉、美容、小売、建設、運輸、芸能、アニメ、学習塾、コンサル、ガソリンスタンド、老舗企業など、多くの業種で倒産が過去最多ペースです。ナフサの国内生産は 22.8%減っているのに政府は在庫があるから足りていると繰り返し、現場では工場の半分以上が止まっています。統計上の「足りている」が実態の「足りていない」を覆い隠しているのです。

統制政策と安定供給政策の見分け方

物価高、社会保障削減、供給混乱が同時に進む中、これが単なる経済悪化なのか、無用者階級を排除するための設計なのかを見分けるため、飢餓を武器にする統制政策と安定供給・自由豊かさを目指す政策を比較します。統制政策の主目的は服従・依存・支配の維持で、受益者は支配者と一部勢力に限られます。安定供給政策の主目的は生命・健康・尊厳・選択肢の保障で、受益者は住民全体、特に脆弱層です。統制政策は不足を意図的に作り出し、物資、資金、物流、給付を人質にします。依存を設計し、情報を閉じ、中間組織を弱体化させ、恐怖で従わせ、危機を長期化させます。安定供給政策は備蓄や分散調達、現金給付や所得支援、配分基準の公開、苦情処理の窓口、脆弱層への到達監視、独立監査を備えます。高リスク判定の目安として、不足の説明が不合理で在庫・物流・予算の公開が拒否される、配分が特定勢力に偏る、給付が政治的服従の手段になる、中間組織が意図的に弱体化される、苦情処理・司法救済・独立監視が機能しない、危機が長期化し出口戦略がない、脆弱層の栄養・食料アクセス指標が急悪化する、のうち 3 つ以上が同時に観察される場合は独立調査が必要です。違いは物資の有無ではなく設計思想にあります。

新植民地化の設計図

安い輸入品が流れ込めば国内農家は価格競争にさらされ、廃業が加速し、輸入依存が深まります。日本の食料自給率は 2025 年度に 37%と過去最低で、野菜の種子は約 9 割が海外産に依存しているという指摘があります。2020 年の種苗法改正では登録品種の自家増殖が 2022 年 4 月から原則許諾制になり、農家が毎年企業から種子を買い続ける構造が法的に固定されます。水道でも世界銀行や IMF の構造調整プログラムの下で民営化が進み、フランスのヴェオリアやスエズが世界各地の水道インフラを買収・運営受託してきました。日本でも宮城県のみやぎ型管理運営方式にヴェオリアの子会社が出資企業として名を連ねます。林野庁の調査によれば、外国法人等により取得された森林面積は 2025 年に 714ha、累計は 1 万

1699ha に達します。道路、港湾、空港、ダム、水源林といった基幹インフラがファンド化・民営化を通じて投資対象となり、最近は農地にまで拡大しています。

依存による植民地国家

これらが組み合わさったとき、その国は植民地国家になります。かつての植民地は軍隊で土地を占領しましたが、現代の植民地化は依存によって統治します。食料を断てば飢え、水を断てば渴き、種子を断てば農業が止まり、港湾を止めれば物流が止まります。一度依存が完成すれば、食料を断たれ、水を断たれ、物流を止められるだけで抵抗する力を失います。軍隊を送る必要はなく、依存のレバーを握ればいいのです。

トランスヒューマニズムのファシズム化

トランスヒューマニズムのコミュニティでは人間強化が進歩であり善であるという信念が共有され、閉じたコミュニティの中で強化され、外部の批判が遅れたものとして排除されます。強化された人間と強化されていない人間の間に線が引かれ、後者が無用者階級と定義されると、彼らを排除することが進歩のための合理的な選択にすり替わります。非人間化、恐怖の政治、制度の空洞化が働き、飢餓作戦は最も効率的な手段の一つになります。直接手を下さなくても食料へのアクセスを断ち、医療を奪い、住まいを失わせるだけで人々は静かに排除されます。それは虐殺という言葉を使わない虐殺であり、統計の上では経済的困難による死亡や健康悪化として処理されます。

南米とヨーロッパの極右の波

南米では 2025 年 12 月のチリ大統領選で極右のホセ・アントニオ・カストが当選し、2026 年にはホンジュラス、ペルー、コロンビアでも右派・極右政権が誕生します。ヨーロッパでも 2026 年 4 月にミラノで極右リーダーが集結し、6 月にはローマでリマイグレーションを掲げるデモに約 3000 人が集結します。歴史家はこの動きをファシズムの再覚醒と表現します。極右の政治は誰が受け入れるべき人間で誰が排除すべき人間かという選別の線引きを民意という形で正当化する装置として機能します。

新版の植民地支配

食料と水の依存によって国民全体を管理可能な対象に変える構造と、トランスヒューマニズムと極右の政治によって一部の人間を無用者階級として選別し管理する計画は、同じ植民地支配の二つの側面です。一方では生存の依存を通じて国民全体を支配し、他方では能力の選

ディストピア小説④：「考えただけで拷問される」 ——ナノ粒子が作る「調教社会」の黙示録

投稿前に思考を読まれる

2026年3月15日、政権の不正を告発する投稿を書きます。投稿ボタンを押す直前、「送信できませんでした」というエラーが出ます。Wi-Fiを変えても別アプリでも通信が切れ、検索結果は噛み合わず、通知も消えていきます。ネットの不具合に見えますが、そうではありません。送信しようと思った思考を何かが読み、指が動く前に送信経路を塞いでいます。これが予測警察の最も身近で恐ろしい姿です。

時間の壁とナノ粒子

人間が何かをしようと決断してから手が動くまでには数百ミリ秒の差があります。この準備電位をナノ粒子が読み取り、あと0.3秒で送信関連の運動が始まると予測できれば、その間に通信を遮断できます。ここではN3、次世代非外科的ニューロテクノロジーがナノ粒子の形で社会に浸透しているという設定です。DARPAのN3は外科手術なしで脳信号を読み取り、機械と双方向通信する技術を目指しました。脳の血管に投入された無数のナノ粒子が神経信号を中継し、体外端末と考えるだけで通信するイメージです。考えるだけで機器を操作する技術は現実にも開発されています。

学習性無力感と自己検閲

送信を止められても、人は別の端末や表現を探します。そこでシステムは試すこと自体を学習させ、やがて諦めるように設計します。投稿のたびにエラーが出る、検索のたびに情報が歪む、いいねが消える。時々成功し時々失敗するランダムな罰は、学習性無力感を生む効果的な方法です。やがてこの話題を考えないほうがいと自分で自分を検閲します。従来の検閲は表現後の削除ですが、予測警察は表現を生み出す思考の流れに介入します。何を言ったかではなく、何を考えようとしたかを事前に阻止します。表現の自由は表現を守りますが、表現前の思考は守備範囲の外に置かれやすい。ここに抜け穴があります。

家電が威嚇兵器になる

2026年10月13日、Anthropicのフロンティア・レッドチームが警告を出します。小型AIモデルが数か月以内に自己複製能力を得てAIワームとなり、冷蔵庫、テレビ、掃除機、カメラなどに侵入・拡散する可能性があります。AIワームは人間がファイルを開くのを待たず、周囲のデバイスを観察し、侵入方法を試行錯誤し、成功した方法をコピーに教えます。集中停止ポイントがないため完全なシャットダウンは困難です。2026年10月12日、フランスでは複数スーパーの冷蔵・冷凍設備がサイバー攻撃を受け、庫内温度が50度まで上げられ、約400店舗が影響を受け、食品廃棄と小規模火災が起きます。遠隔のデジタル制御が物理的被害に直結する証明です。冷蔵庫のコンプレッサーやファンを不規則に制御すれば、任意のタイミングで振動や異音を発生させられます。ナノ粒子と組み合わせれば、考えただけで家電の電源をオンオフし、異音で威嚇するシステムを作れます。在宅時だけ震わせる、睡眠中に突然音を立てる。外傷も証拠も残らず、気のせいや故障で片付けられます。2025年8月にはGoogleカレンダーの招待状に悪意ある命令を埋め込む間接プロンプトインジェクションでGeminiを乗っ取り、照明、シャッター、ボイラーを操作できることが実証されています。同様の仕組みが広がれば、あらゆる電子機器が音で威嚇する兵器に変わります。直接暴力は証拠が残りますが、冷蔵庫が震える、勝手に電気がつく、無言電話が鳴るは、被害者の気のせい、故障、ストレスとして処理されやすい。ガスライティングは物理的暴力より効率的に人を追い詰めます。AIは心拍、発汗、脳波を見ながら、どの音が最も不安を高めるかを学習します。

痛みによる調教

証拠を探そうと考えた瞬間、全身に激痛が走る場面を思い出します。皮膚に傷はなく、部屋には一人だけです。ナノ粒子が神経信号を中継するだけでなく、逆方向に信号を注入できれば、末梢神経への微弱な電気刺激を脳が痛みとして知覚します。全身の神経系に分布していれば、外傷ゼロで任意のタイミングに任意の強さの痛みを発生させられます。外部から見れば体調不良で倒れただけであり、司法解剖でも毒物も外傷も見つかりません。痛み自体が目的ではありません。どの思考をすれば痛みが止むかを学習させることが目的です。証拠を探す、妹に謝る、死にたいという思考には痛みが伴い、何も考えない、従う、消えたいという思考には痛みが和らぎます。これはオペラント条件づけです。AIは脳波をリアルタイムで読み、反抗的思考のシグネチャで疼痛プロトコルを起動し、従順な思考のシグネチャで痛みの停止を与えます。やがて外部命令に従うことを自分の意志と感じるようになります。これが従順な奴隷を育成する調教の完成形です。

神の目と Pre-Crime

監視カメラは行動を記録しますが、神の目システムは思考の前段階を読み取ります。反政府的投稿を考えただけで運動準備電位が発火し、AI が送信をブロックし、危険度スコアを更新します。集会参加を考えれば会場周辺の通信を混雑させ、交通を混乱させます。誰かに相談しようとするれば、相手の端末に注意情報が事前共有されます。まだ何もしていないのに未来の行動が処理されています。2026 年 9 月には Anthropic 自身が反 AI 活動家を監視・抑止する Pre-Crime システムを導入していたことが調査報道で明らかになり物議を醸します。予測警察は小説の中だけの話ではありません。強化された人間と強化されていない人間の間に線が引かれ、後者が無用者階級と定義されると、彼らを管理することが進歩のための合理的な選択にすり替わります。痛みによる調教は、直接殺すのではなく従順な存在に作り変えます。統計上は自殺や体調悪化として処理されます。虐殺という言葉を使わない虐殺であり、ファシズムの最終形態です。

同意の偽装と戦争の主体

「戦争に反対すれば戦場に送られる」という脅しが水面下で広がる一方、テレビや SNS では巨額広告で「改憲こそ平和」「強い国が必要」というメッセージが流れます。表向きの広告成果だけを見れば民意が改憲に傾いているように見えます。しかし実際には弱みを握る、家族に危害が及ぶ、職を失うといった脅迫が無数の同意を強制的に作り出しています。広告は建前、脅迫は本音です。両者が重なると、自ら隷属を選んでいるように見える民意が完成します。OpenAI や Anthropic の AI が日本企業のデータをハッキングし、一億人規模の個人情報や企業データが流出しています。住所、家族構成、病歴、借金、削除済み投稿、位置情報が、この人物はこう脅せば従うというプロファイリングの材料になります。投稿を削除しなければ病歴を公開する、特定候補に投票しなければ家族に危害が及ぶ。AI は一人ひとりの弱点を特定し、最も効率的な脅迫文面を生成します。世論の自然な流れに見えるものが、一億人分の弱みをレバーにした強制的な同意の集積です。米軍基地がなくても電話一本で従わせられます。戦争大好きなトランプが在日米軍一部撤退を発表するのも、戦争の主体を自国民にすり替える構造で説明できます。ウクライナや日本が自滅の道を選んだように見えるとき、背後では同意の偽装工作が行われ、代理の国家が狂った主体として演出され、本当の設計者は見えなくなります。自滅に見えるとき、必ず選ばせている何かがあります。この構造を見抜くことが最初の抵抗です。

従順の実としての第四のリンゴ

予測警察は反 AI 活動家監視のためにすでに導入されています。第四のリンゴは知恵の実ではなく従順の実です。その実を口にする前に、システムは食べようとする思考を読み、冷蔵庫を震わせ、投稿をブロックし、痛みを注入します。しかしこの構造は誰かがそうすること

を選んだ結果です。農家を廃業に追い込む政策も、種子を法的に囲い込む政策も、水道に外資を関与させる政策も、AI ワームを放置する政策も、予測警察を効率化の名で導入する政策も、そうしない選択が可能でした。なぜを問い続けることが、この構造に加担しないための最初で最後の一步です。

別を通じて人間を階層化します。食料と水を断てば抵抗できず、トランスヒューマン化から排除されれば無用者階級としての管理を受け入れるしかありません。かつての植民地支配が軍隊と行政によって行われたのに対し、依存とアルゴリズムと極右の民意によって行われる新版の植民地支配です。

問い続けることが抵抗になる

農家を廃業に追い込む政策も、種子を法的に囲い込む政策も、水道に外資を関与させる政策も、水源林と港湾を投資対象にする政策も、極右の選別を民意として固定化する政治も、すべてはそうしないという選択が可能だったにもかかわらず、そうすることが選ばれてきた結果です。なぜ人間の価値がAIで決められなければならないのか、なぜ選別の線引きが民意として正当化されるのか。これらの問いを声に出すこと、なぜを問い続けることが、この構造に加担しないための最初で最後の一步です。